

Ⅲ ヒアリング調査からみた企業の声

1 製造業

(1) 一般機械器具

【景況感】

- ・産業機械市場の景況感が大幅に悪化している。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、不況である。
- ・半導体製品の一部で受注量の増加がみられる。
- ・同業他社の廃業が増えているように感じる。

【売上高】

- ・売上高は10～15%減少した。
- ・産業機械は大幅に受注が減少したため、売上高も大幅に減少した。
- ・半導体製造装置や医療関連装置の受注は好調が維持され、売上高も好調を維持できた。

【品目別の状況】

- ・産業用機械関連の受注が大幅に減少している。
- ・半導体関連や医療機器関連は堅調である。

【受注単価】

- ・受注単価はほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・原材料の国内調達が増加したため、全体的な仕入れ価格が上昇した。
- ・原材料価格はほとんど変わらない。

【その他諸経費】

- ・残業規制を行っている関係もあり、人件費は減少した。
- ・外注費削減により経費削減を進めている。

【採算性】

- ・受注減少等により採算性が前年同月比60%減少した。
- ・売上減少により採算性が悪化した。

【設備投資】

- ・製造能力増強のための投資を実施した。
- ・設備投資実施額は前年同月比60%程度である。

【今後の見通し】

- ・半導体関連受注が縮小した場合には大幅に受注が減少、工場稼働率も低下し採算性も悪化するとみている。
- ・受注状況の回復は、年内は厳しいとみている。

(2) 輸送用機械器具

【景況感】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、不況である。
- ・自動車業界では休業日が増え（10日以上/月）、生産量が減少している。
- ・仕事量が大幅に減少している。

【売上高】

- ・売上高が前年同月比40%程度減少した。
- ・売上高が前年同月比15～20%減少した。

【受注単価】

- ・受注単価はあまり変わらない。
- ・受注単価が1%程度下がった。

【原材料価格】

- ・原材料価格はあまり変わらない。

【その他の諸費用】

- ・経費はあまり変わらない。
- ・稼働減少により人件費が減少した。

【採算性】

- ・売上減少により採算性が60%減少した。
- ・採算性は悪くなっている。

【設備投資】

- ・発注済みの設備投資のみ実施した。
- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・工場の稼働日数は回復するものの、見通しはどちらともいえない。
- ・先行きは悪くなるとみている。

(3) 電気機械器具**【景況感】**

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、不況である。
- ・景況感は普通である。

【売上高】

- ・売上高は前年同月比と同水準である。
- ・売上高は前年同月比で減少した。

【原材料価格】

- ・原材料価格はほとんど変わらない。
- ・原材料が前年同月比で上がった。

【その他の諸費用】

- ・パート社員の人件費が上昇した。

【採算性】

- ・採算性はあまり変わらない。
- ・採算性は少し良くなった。

【設備投資】

- ・新規受注対応の製造ラインを増強した。

【今後の見通し】

- ・当面は悪くなっていくとみている。
- ・製品によっては忙しくなるものもあるが、見通しはどちらともいえない。

(4) 金属製品

【景況感】

- ・不況である。

【売上高】

- ・売上高は減少した。

【品目別の状況】

- ・自動車関連の受注状況が特に悪化している。

【受注単価】

- ・受注単価は変わらなかった。

【原材料価格】

- ・原材料価格はあまり変わらなかった。
- ・原材料価格が下がった。

【その他の諸費用】

- ・ほとんど変わらない。

【採算性】

- ・採算性は悪くなった。
- ・採算性はあまり変わらない。

【設備投資】

- ・実施していない。

【今後の見通し】

- ・悪い方向に向かうとみている。
- ・廃業が増えてくるとみている。

(5) プラスチック製品

【景況感】

- ・景況感はやや不況である。
- ・休業する事業者が増えてきている。

【売上高】

- ・売上高は前年同月比で減少した。
- ・売上高はあまり変わらない。

【受注単価】

- ・受注単価は変わっていない。

【原材料価格】

- ・原材料価格はほとんど変わっていない。

【人件費】

- ・4月の昇給と人員増加により、人件費は増加した。
- ・人件費は減少した。

【採算性】

- ・採算性はあまり変わらなかった。

【設備投資】

- ・コンプレッサーを増強した。
- ・実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・新規受注の量産化により、売上げが増加するとみている。
- ・コロナウイルスの影響もあり、今後の見通しはどちらともいえない。

(6) 食料品製造**【業界の動向】**

- ・小売店向けの供給や製造小売りは、コロナウイルスの影響によりマイナスに出ている。
- ・スーパー向けの供給等は増加傾向にある。

【景況感】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、不況である。
- ・内食需要に関連した商品の受注は、増加している。

【売上高】

- ・売上高は減少した。
- ・食品スーパー向けの受注が増加、売上高が前年比30～40%程度増加した。

【受注単価】

- ・OEM商品の受注単価はほとんど変化がない。
- ・受注単価はあまり変わらなかった。

【原材料価格】

- ・小麦粉の価格が4%低下した。

【人件費】

- ・人件費は減少した。
- ・受注量が増加したことにより、残業代が増加した。

【採算性】

- ・売上高が減少したため採算性が悪化した。
- ・受注増加や原材料価格低下により、採算性が上がった。

【設備投資】

- ・新製品対応の設備を導入した。
- ・包装機等の設備投資を実施した。

【今後の見通し】

- ・消費の回復により良い方向に向かうとみている。
- ・コロナウイルスの影響もあり、先行きはどちらともいえない。

(7) 銑鉄鋳物

【景況感】

- ・景況感は悪化している。

【売上高】

- ・売上高は減少した。
- ・売上高はほとんど変わらない。

【受注単価】

- ・ほとんど変わらない。

【原材料価格】

- ・特に変化はない。

【人件費】

- ・あまり変わらない。

【設備投資】

- ・設備投資は行わなかった。

【今後の見通し】

- ・今後も悪い方向に向かうとみている。

(8) 印刷業

【景況感】

- ・緊急事態宣言によるイベント自粛や生産の減少がみられ、印刷ニーズは減少している。
- ・県内企業数も減少傾向である。

【売上高】

- ・売上高は前年同月比65%程度まで減少した。
- ・イベント関連の売上高が大幅に減少した。
- ・売上高はほとんど変わらない。

【受注単価】

- ・ほとんど変わらない。
- ・発注量が激減しており、受注単価の話までにならない。
- ・受注単価は下がった。

【原材料価格】

- ・インキの値上がりはなかった。
- ・材料メーカーからの価格交渉はない。

【採算性】

- ・売上高が減少しており、採算性も悪化した。
- ・5月以降、採算性が特に悪化した。
- ・採算性はあまり変わらない。

【設備投資】

- ・新規事業に向けたラインを新設する。
- ・既存設備の更新投資を実施した。
- ・IoT投資を進める。

【今後の見通し】

- ・7～9月も不透明感がみられる。
- ・今後は悪い方向に向かうとみている。

2 小売業

(1) 百貨店

【景況感】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、不況である。
- ・地方、郊外店は特に厳しい状況にある。

【売上高】

- ・売上高は前年同月比60～70%程度減少した。
- ・緊急事態宣言に伴う臨時休業により、衣料品全般の売上げが大幅に減少した。
- ・一般食品は巣籠もり需要もあり、売上げが増加した。
- ・営業再開後は休業の反動もあり、売上げの増加がみられた。

【諸経費】

- ・臨時休業に伴い、人件費や宣伝広告費が減少した。

【採算性】

- ・売上げが大幅に減少しており、採算性も大幅に悪化した。

【今後の見通し】

- ・消費動向の先行きが不透明であり、悪い方向に向かうとみている。
- ・取引先アパレルメーカーの経営状況悪化等の影響で、仕入れにも影響が出る可能性がある。
- ・7～9月期は去年消費増税の駆け込みがあった分、前年比は下回るとみている。

(2) スーパー

【景況感】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により内食需要が増加し、食品スーパーの景況感は好況である。
- ・食料品以外は新型コロナウイルス感染症の影響により休業が続いたため、不況である。

【売上高】

- ・売上高は前年比25%以上増加した。
- ・客単価も増加傾向である。
- ・生鮮三品は好調であるが、惣菜は不調である。
- ・日用品の販売も好調であるが、除菌マスクやトイレットペーパーが品薄である。
- ・精肉の売上げが好調である。
- ・衣料品は全般的に不調である。

【諸費用】

- ・チラシを減らしたため、広告宣伝費が減少した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策で人件費が増加したが、宣伝広告費の減少もあり経費率はあまり変わらない。

【採算性】

- ・売上高が増加しており、採算性は良くなった。
- ・利益率は前年同月比50%程度となった。

【今後の見通し】

- ・内食の需要は今後も堅調であるとみているが、所得の減少により販売単価が引き下げられる可能性もあり、どちらともいえない。
- ・景況感は悪い方向に向かうとみている。

(3) 商店街**【景況感】**

- ・景況感は不況である。
- ・床屋や婦人服販売店の多くが休業しており、不況である。

【来街者】

- ・来街者は40%程度減少しており、非常に厳しい状況である。
- ・外出自粛の影響もあり、GWの旅行ニーズが減少した分、商店街の来街者は増加した。

【個店の状況】

- ・飲食店が特に厳しい状況にある。
- ・イベントの自粛や納品先の休業等により、売上高が減少している。
- ・飲食店はテイクアウトを始める等しているが、売上高はそれほどでもない状況である。

【商店街としての取組】

- ・夏のイベントやナイトバザール等のイベントを中止した。
- ・町会費や組合費の徴収を一部免除した。

【今後の見通し】

- ・今後も悪い方向に向かうとみている。
- ・悪い方向に向かっており、今後廃業する店舗が増加するかもしれない。
- ・感染拡大が収まってとしてもワクチン等が開発されるまでは、現状より少し良くなる程度だとみている。

3 情報サービス業**【景況感】**

- ・営業活動の自粛やプロジェクトの遅延等により、景況感が悪化している。
- ・顧客先のテレワーク環境整備に向けた機器販売やネットワーク構築等のIT投資ニーズは見込まれるものの、現時点では状況の見通しが不明である。

【売上高】

- ・民間企業は景況感の悪化によりIT投資が減少しており、民間企業向けの売上高は減少している。
- ・前年度からの長期案件により、売上高は増加した。
- ・官公庁向けの売上高は安定している。

【製品価格】

- ・受注単価はほとんど変わらない。
- ・カスタマイズ製品が多く案件ごとに適正な価格設定をしている。

【採算性】

- ・新規受注の減少等により稼働率が低下しており、採算性は悪化した。
- ・採算性は悪くなった。

【設備投資】

- ・在宅勤務の環境整備を行った。
- ・テレワークの設備導入や感染拡大防止対策の投資を行った。

【今後の見通し】

- ・景況感の悪化により設備投資が抑制されるおそれがある。
- ・4～6月の受注活動自粛の影響により、売上減少が見込まれる。
- ・在宅勤務の増加等により作業効率が低下し、採算性が悪くなるとみている。

4 サービス業（旅行業）

【業界の動向】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている。
- ・業界内のほとんどの会社が大きな影響を受けている。

【景況感】

- ・大きく影響を受けており、不況である。
- ・来期以降も密を避けるなど新様式への移行が必要であり、完全復活とは言い難い状況が続くとみており、景況感のV字回復は望めない状況である。

【受注高】

- ・前年同月比97～98%程度受注が減少した。

【受注価格】

- ・ほとんど変わらない。

【採算性】

- ・売上高が大幅に減少している一方で固定費の支払いは変わらず、採算性は悪くなった。

【設備投資】

- ・実施していない。

【今後の見通し】

- ・7～9月は前四半期比では回復傾向が予測されるが、対前年比では大幅に減少となるとみている。
- ・売上高は前年同期比50%程度になるとみている。

5 建設業

【業界の動向】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、公共工事の発注に遅れが出ている。
- ・外出自粛の影響もあり、不動産の動きが鈍くなっている。

【景況感】

- ・景況感は普通である。
- ・景況感はやや不況である。

【受注高】

- ・公共工事の発注が遅れている影響もあり、受注高は減少した。
- ・受注高は20%程度減少した。
- ・工事受注高は変わらない。

【受注価格】

- ・受注価格はあまり変わらない。

【資材価格】

- ・資材の調達難により、資材価格は上がった。
- ・鋼材価格は低下した。

【採算性】

- ・採算性はあまり変わらない。
- ・受注高が減少していることに加え、感染拡大防止対策で諸費用が増加したこと等もあり、採算性は悪化した。
- ・採算性は20%程度低下した。

【今後の見通し】

- ・景況感は悪化の方向に向かうとみている。
- ・景気の悪化が長期化することで、廃業等が増加する可能性がある。